２０１３年　８月１０日（土）　平和をつくる旅　石巻・女川視察

５時５９分藤枝発。６時３０分頃静岡駅で全員集合。
６時４５分発のこだま。予想外にすいていている。
８：００東京駅着。８：０８東京発やまびこに乗り換え。
郡山あたりで線量計で計測。
０．１５マイクロシーベルト／時。

１０：１６仙台着。高知の幡多ゼミナールの山下先生、福島の斉藤先生が迎えに来てくれている。高知から高校生・引率教師が１１人。福島から３人。映画撮影班が６人。高知新聞記者と早稲田大学大学院生。総勢３２人。

石巻市山下町の元高校教諭菊池英行さんが案内。まずは震災のビデオを鑑賞。

三陸自動車道にのり矢本インターで降りて、石巻へ。航空自衛隊松島基地の横を通り、北上運河に出る。3か月ほど前まではまわりに津波で破壊されて空き家になった家が何軒か残っていたらしいが、今はほとんど撤去されている。震災直後の写真と比較しながら説明を聞く。

大曲地区へ。定川大橋。津波で流されてきた貨物船がぶつかり、中央部が破損。みずほ第二幼稚園の横を通る。脚立で屋上に避難したという。

石巻港を見ながら門脇小学校へ。以前はコンビニがあったというところに、慰霊の地蔵。

門脇小学校の両脇に寺と墓地のある。校舎にはシートがかけられている。プールにも車や遺体がいっぱいだったという。

子どもたちと教師が避難したという西光寺敷地内墓地の坂道を登る。菊池氏の親友である黒坂黒太郎氏がコカリナにして石巻の子どもたちにプレゼントしたという赤松の木。
墓地も坂の下の方は破壊されたまま。校舎は３階から出火。２階は無事だったという。

日和山の上には石巻市立女子商業高校。まわりの住宅地はほとんど被害がない。
日和山公園の中を通り、金ベエ茶屋。展望台から門脇町、南花町を展望。日和山は周囲が水没し、島のようだったと。

旧北上川の河口に懸る日和大橋の中央部１８メートルを津波がかすったという。
宮沢賢治のみがあり、花の巻きから海を見に来て、津波の経験と重なり、恐ろしいものとして描いている。

日和山から北を見ると、旧北上川の中州が見える。石森正太郎マンガ館がある。そこに架かる橋も、がれきで通れなかったという。菊池先生自身も、親が老人介護施設に入っていて、その見舞いに行くのに苦労したと。

住民が避難のために駆け上ったという階段を下る。

バスは、女川街道を万石浦のカキの養殖棚を見ながら牡鹿半島の付け根を横断し女川港へ。

復興のために整備が進み始めてはいるが、ビルが横横倒しになってそのまま放置されている。

原発マネーでできたという地域医療センターの小高い丘の上に登る。津波はこの丘の上までおそい、一階部分水没したという。

女川原発は見えないが、オフサイトセンターは津波のために破損。女川原発自体も１３メートルの津波がおそい、あと１メートルで海水ポンプが冠水するところだったという。外部電源も１系統だけが機能しただけ。まさに紙一重。

原発建設の時に菊池氏らが反対運動を展開。津波被害を予想し、海底を浚渫させたのだが、それをしていなかったら福島原発と同じことになっていただろうと。

女川からもどり利府の総合運動公園合宿所グランディ２１へ。

夕食後、自己紹介をして交流会。